

■日程：2024年5月15日（水）～5月18日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
5月16日（木）	穴水町諸橋地区 仮設住宅団地	7名
5月16日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	21名
5月17日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	34名
5月17日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会施設	40名
5月17日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・家にいると嫌になるがサロンに来ると気がまぎれる。顔見知りの近所の人と会うと安心する。
- ・輪島の避難所で生活をしている。歩いていたらサロンを発見して来てみた。話をして気分が変わった。どうもありがとう。
- ・家の公費解体の順番待ち。仮設住宅に住める2年間に生活を再建できるか心配。
- ・家が半壊。修理、撤去について相談先がわからない。災害ごみの期限に間に合わない。情報が知りたい。
- ・震災の話をしているよりも、未来のことを話しているほうが楽しい。2日おきに来る移動販売が楽しみ。
- ・近所に木工屋さんができて9カ月で被災した。クラウドファンディングで頑張っている。
- ・上水道が復旧したが下水が使用できない。公民館で水を汲みタンクにためて使用している。集会所のお風呂を使用しているが、都合のいい時間に使用できないことも多く、仮設住宅の知人のお風呂を借りている。自衛隊のお風呂が近々なくなってしまうので困る。
- ・地域の消防団もあるが今動ける人が3人しかいないため活動ができていない。
- ・神奈川から来た看護師さん。現場は疲弊している人が多く、ホッと出来る場所がない。サロンで甘いものを食べると安心できる。チラシ貰っていく。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・毎週のサロンが交流の場となりつつあるのを実感。震災や現状の生活の話より、震災前の趣味や楽しみのお話が長く、非日常を感じられるひとときなのではと思った。
- ・ピラ配りで出会ったサロンに来ることが難しい高齢者やケガをされた方へのフォローが必要。
- ・地域の被害状況によって話題も変わる。仮設住宅に住まわれている方が多い地域は不安な話が多いように感じた。

